

頭書
大全
世界國盡

北亞米利加洲

四

四

古論武子



北亞米利加の事
千四百年代の末足
武士とひふ人りを
羊の毛績ぐ貪一き

北亞米利加洲

亞米利加は西よ教

新

世界

繫るれ狀

梯子を李北ハ馬良

尾み岬より南の願

福澤義塾
七

家の子みかとレグ航カ
海シの術ト心得アラス其志ミタニ
所九人トナギン人ヒト内ナリらば
獨モ自コかタ考ガクふ
不世界セシキの状圓カタマツきカ
ヘ東北ヒタチ方カ印イン度ドふ
どトの土ト地チ内ナリキバカ
の方カも必カジ地チ方カ
立タチ西班ハサウエイの王ウ小シ說ガク
立タチ西班ハサウエイの王ウ小シ說ガク

多
麻
塗
蘭
一
米
四
百
丈
大
沙
比
理
之
續
巴
布
馬
有
地
峽
五
千
條
里

王妃ウエイヒの助シテを以メテて
船ボウ三艘サンボウと仕立シタチ西シ一イチ〇
方カとさシて乘マサニ出スルせ
一小果シヨウコ一イチ陸リュウ地チと
幾明ハナタケ一イチ頃ハ千シ荒ハラ
四百九十二年シブシジヌイ即ハシマち
我明應元年カミヨウエイゲンかと去
の人頻ヒトヒタツ歐羅巴諸國オロバツヅクの
久地面クジマツと見ミ出スし

海シ一イチ厚保ヒヂヤマ過スル行ム室ムロ
北ヒタチ至ル宋利加ソウリカ渡スル

見出を隨ひ本国

人を移して新

地を開け得る所

利潤も多一土地

の模様小由り地理

の學者ハあきと南

北二大洲小分ち又

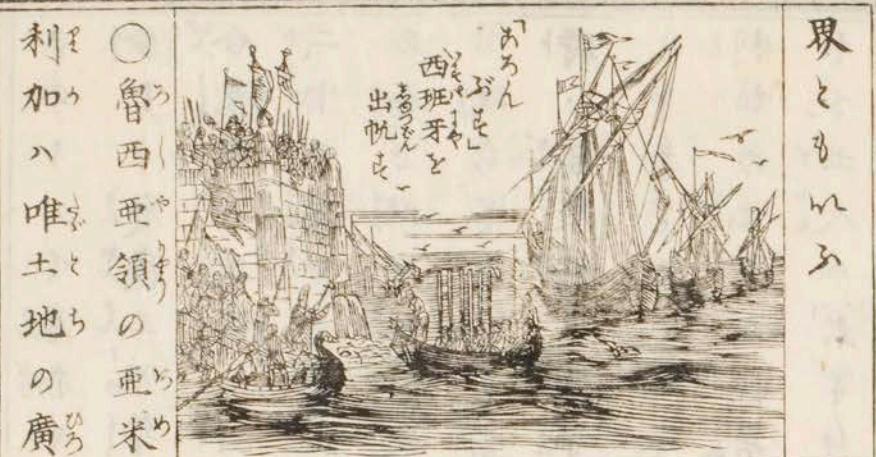
亞細亞阿非利加欧

羅巴と田世界と以

ヒア米利加と新世

界とモルヒ

北洋まで東西二三
五右條里世界三
の大洋ナリ北
洋ノルハ魯西亞領
北亞米利加の西の隅



世界とモルヒ
史記の天地と摩序
水と人民性と之
水と氣象と民性と之
人の情ハ漁樵の
利加ハ唯土地の亞米

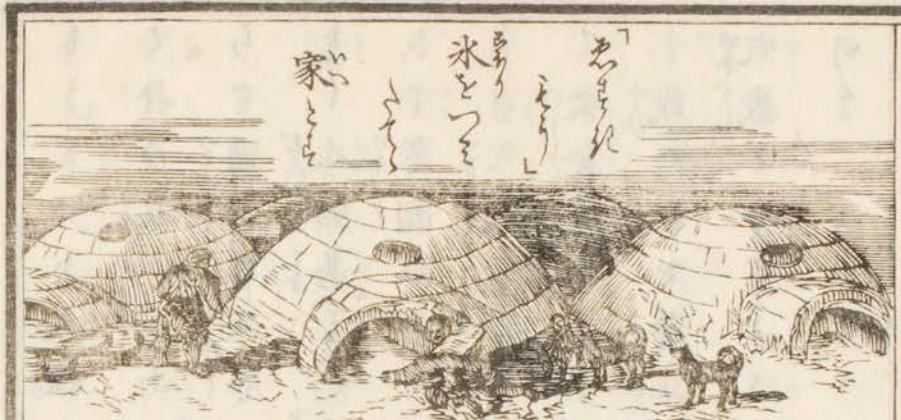
きのとれて產物も
少な慶應三年卯年
合衆國の政府七百
二十五萬ドルの金
の金として此土地
と残らざ買取を當
時ハ合衆國の領分
と利加の北方小住居
を土人ハ居り

「具理修蘭士伊須
蘭士モ乃本主ハ此
北極ち紀寒帶
みぞ多氣ニ移リ白秋
雪也多の古ヨリ煙
」

もうといふ人種も
て身の長五尺不足
らモ通用の文字も
人物甚ぞ愚
あり寒國のあとか
きバ穴藏不住居
て衣食共不きか
一或ハ氷と層立て
穴藏とす

「南アヌス合衆國
加ハ北極海の邊モ
美吉利領アヌス利
」

北亞米利加國ニテ
其一冬の寒地
水と北名不毛地
氣の寒土人毛地
人氏種十
多麥也アホヤ
ノミナシアホヤ
アホヤアホヤアホヤ



おもきもの外ふ
又いんぢやんとい
ふ入種アーチュ即ち亞利加
米利加の土人種と
ハムのことアリ昔
利加見出せ前
者にて開闢以來の
亞米利加人されど

ハム多氣盲の雪
武ム南木は金田
の地氣候不正小利
カウトノ民多く好雪
ノミナシアホヤアホヤ
アホヤアホヤアホヤ

其性質殺伐
て文字を知らるゝ處
さだめ一家もしく
山阪と徘徊一弓矢
と以て獸と殺一肉
と喰ひ皮を着て生
涯と渡る者多至歐
羅巴人の亞米利加
へ移るより此人種
と追拂ひ都會の

大河れ畔の喜別
小築建中石塋は
金城湯池アヌミ
イ世の後アヌミ
アヌミ加

地へ出るを許さざ
追々其人の數も減ん
少るよ



の治部良苗多苗と
川の河の源
湖門土里苗古河
中の鳴不川
支易鳴西上

○金田の地ハ近來益々繁昌して諸國小學問所も多く往來の便利ハ蒸氣車並み湖水小汽船來也。西洋人の説自此地手を離きて獨立す。

小田羽河よりみる
國時代友所北北
極西方ハ太平海の水
流うち利の方阿

又ハ合衆國へ
歸して一の政府と
からべりといふ

多羅海新見の國
の果また元一毛子
利加ノリ英吉利は
藏勢以根よ根本



「金田地主の所領」



○前から以へる如
く亞米利加洲と見
出せ。後ハ歐羅巴

「金田地主の所領」
「車止めの源ニモ多
く作の事無也。生

の諸國より家と移
り三百年ぞのの
間人別も追々増
今合衆國の東
海岸の地ハ英吉利
の領分かて人の産
業も繁昌を小付
本國の政府も運
上と取上げんとせ
小領分の町人百姓

「金田地主の所領」
「車止めの源ニモ多
く作の事無也。生
きる別一卷よば

姓どもの言分小億
兆の人民天地の間
生も貧富強弱の
別あざめらん男ハ
一人か女ハ女
男一人か女ハ女
一人か他人の妨
と為さじきハ亦他
人より妨げらる
の理か今此地小
居て銘々の家業と

當ミ銘々共ノ申合
せふ國中の取締
を行届き本國の世
話を受けどとも自ら
から一國を治ム
けの覺悟ある覆フ
政府より色々の命
と下し謂ひかく運
上を取立んとハ以
らざる世話を為シ
上を取立んとハ以
らざる世話を為シ

役化の勢威
我自由天の至理
其國報申
丹心誠

本心監督し方
能ミ一種多額万物
の事事一見天の性
の古不易ひ一大義
事事公一才公
人より妨げらる
の理か今此地小
居て銘々の家業と

本心監督し方
能ミ一種多額万物
の事事一見天の性
の古不易ひ一大義
事事公一才公
人より妨げらる
の理か今此地小
居て銘々の家業と

A black and white engraving of George Washington, the first President of the United States. He is shown from the chest up, wearing a powdered wig, a white cravat, and a dark coat over a white waistcoat. To his left is a vertical column of Japanese text. Above him is another vertical column of Japanese text.

了不復有氣力者也
此之謂生計也
是自然以自由而致之
便乎民乎備乎

て下々の家業と妨
ぐるのをからむ人
の物と奪取て上の
用と達せんとモリ
不埒の舉動が生た
くハ國王政府の命
知り難くて珍々
以て獨立の旗揚小
変定セヌ頃ハ千七

乃不羈獨主乃將
蜀也之水止
北至米利加之十三州
乃本國之政府也
歲光之以之年

とをきどり亞米利
加人ハ固リ必死
小覺悟定り老若男女
獨立の師ト聞て
悦むざる者多く町
人ハ天秤棒を持て
市上起々百姓ハ
鉏鋤を携へて畑よ
モ駆出モナゾの勢
ヤモバ中々穢便の

恨ニシテ多々賴ひ
所ハ天地の理江戸
あふ年を年つ秋十
三晦丸代一人軍士

扱出来至千七百七
十五年四月十八日
見きんこんとい
ふ雲の小戦にて始
て血と流し五月小
争ひ至みきり一月
國の騒乱とかりわ
惣大將を為りて
一人とんを推して
一翌年

ひ速判状世界ノ示
モ檄文ノ英吉利王
の罪状が責め申し
建ヌ一金衆國武
器兵糧少之一に民



共和政府を建ててわ
あんとんと大統領
の職小仕トテ一大
國の基と開きキ
山の戦

國の事失ふ生
得。自由正理屈
て生れよ李國二報
了死死、死し一死決
一七年の末の月日

七月四日小ハ四十
八士獨立の檄文と
布告して人氣益振
ひ昼夜の戰争或ハ
克ち或ハ負ケ千辛
万苦其有様ハ筆か
盡し難一人の誠心
天の恩惠遂か勝利
と得て英吉利と和
睦結び國政を定めて

數多ひ敵を海を越
え新主引替へる
事。極席飛詔の
勢力下に力を挽す奴
銳石の立候よ拒てふ

此度亞米利加にて
帥の起て一ハ誰一
人ニ一ヘ頭取もふ
く國中の人一般が
獨立と望ミ婦人小
兒が至りまぐも其
氣象を備へましも出
されど英吉利よ
リさ一向くる官軍
の勢ふても克ゞ也

乃改守知勇義の名
子アノ歳ト一派に血
乃河骨の山七十載
の銀難も消し忘
ト大勝利目如度也

トムトキモゴー既
小戦争の起て以ざ
のあとかき相ふモ
センといふ處かて
折りも冬の日町の
子供大勢が雪と
集り家を作り達磨
とおーりつゆどー
て戯せ居ゆどー
へ官軍の歩兵來て

下すり四年交代乃
ヒタチ吉利ト和睦結
ヒ新條約來因
キ政体有ト主君
あり天には天下ひ
下すり四年交代乃

何心すくあきと妨
げしもと度々かき
一ウバ子供等大少
貴ふて英吉利の
將軍げいじゆうの外出
きの所を待受け將軍
軍へ訴えりとひを
と呼拭ケレハ將軍
わざ笑ひ汝等も親
小謀反と教へられ

大統領工院の院の行
議役一國中の便不
便議り定め一法律
の威行され極めて
沙事ニ進むほの富百

て來へ来そいや
いへば子供等ハと
くそれ氣色かく將軍
軍とあひつけ我れ
共ハ人の指圖受
けて參て一者小内
らを今日將軍へ訴
ふるゝ余の義から
も我等嘗て官軍へ
對失禮せ覺り

エリツ作高賣は莫吉
利士と肩立つて文教
校藝學校名佛蘭西
國の右ノ以テ地ノミ
づき産物、多穀獸穀

からざり歩兵の
人々謂もすく我等
の自から作る一雪
は達磨と踏崩一池
の氷を破て人の樂
と妨げしふ由是其
乱暴と止むをども
笑て咎へど却て我
等と謀反人なり
唱へ更に取合を差

縛り煙草の薦菓實
甘味金銀銅私鉄石
家ん世間のり用ひ古
物一も不思之矣
衣食を逐ふ人情乎
事もと

圖役の人へ告ぐ
矢張同様の挨拶
の三昧日も雪の家
と毀ち一ひと既小
三度ふ及べて最早
其役を置き難く
思ふ付此上へ唯大
將軍の裁判と仰
所もかく辨説明ら
ぐのと恐れ憚る
大歩兵の歩兵の
所もかく辨説明ら
ぐのと恐れ憚る

免得易き活計
ちゆゑみ人へ署す事
日よ無事三月二十一
人口ニシテ有終多新
北軍費行了事

か小述ベケモバ
以トモとの氣象不
感心一流石亞米利
加の自由の風小浴
加の自浴の風小浴
1た3小兒等勇ま
1れ心くか以後不
1時1歩兵1らバ
必ず仕置を薦1と
てその舉動を譽て
返セ1との詰り全

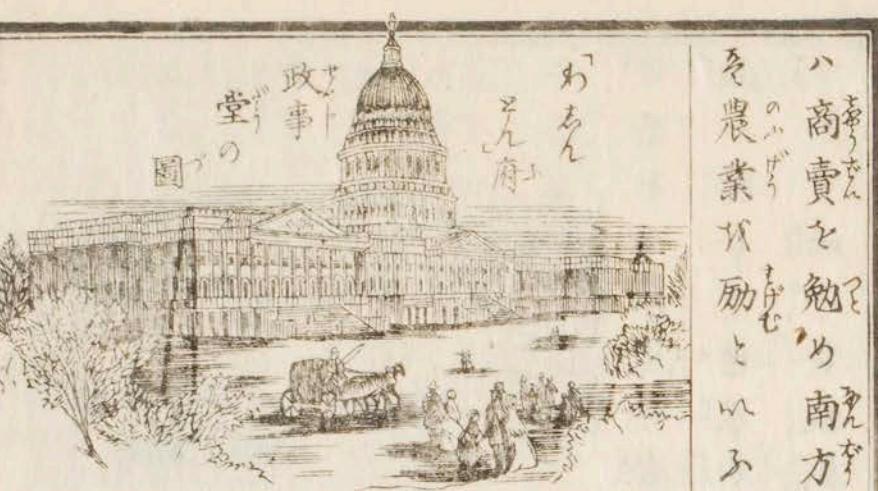
漸^{サク}利^リ國^カ保^ホ東^ド
西^シ一千三百里^リ北^ヒと南^ミ
ノ^ノ年^イ收^ル今^ハ之^ノ數^ニ
傳^ト1^一三十六州^{シテ}矣^シ



立つる爲中心多和
新領府中ノ軍
政事堂高さ三百八
十尺織物櫻岡山巍
令衆國の東海岸小
入世留久の外す

かふをせんふひら
でひやぢのちり
ふ等數多の都會
は文學技藝盛不
一器物製造商賣
繁昌の摸樣へ英吉
利佛蘭西ふ異から
ず南の諸州ふハ米
麥綿烟草等の產物
多く都て東北諸州

獨立一歲をとろ
ひ大風の議政為
政の源をきこひ倍
大きき理すり和新



ハ商賣を勉め南方
を農業が勤とひふ
頃より北の方百里
の處に入り當たり
乃るんづ百多キ年
アヌヌの場生多キ年
ハ夷吉利ル浦政府

ある
市中
遊園
の景
かやわふやの金
山へ固く世界第
一乃是此外合衆國



もと彷彿たりゆ
すらまく海岸の島
保當仁室、八金の里亦
永三年事始より先
て此を建つよ

の領分小ハ金銀銅
鉄の出る處甚ざ多
何よりも蒸氣仕機
の道具と用て巧を
盡一日本の金山と
ハ大不異ある

人ノ像、其ノ彌ト
ナリテ福々金山の
業より之をひ收田
烟石の職業

金山の穴の摸様



北ノ太平

○女喜惠古ハモト
西班牙の領かうす
一八八百二十一
年獨立して合衆政
府を建て一千八百
六十四年佛蘭西が
攻滅され佛の差國
ふくしまきりこせや
んといふ人と立て
國帝とかせりが僅

海の海岸引入
女喜惠古を被ふと
合衆國南東一様と
すと李女喜惠古湾



二年ハリテ慶應三月
卯年國中又乱れて
新帝と殺され
加ノ一界にて南北
んハ万里東西三百
三十里ノ口ハ石三千万
土地ノ生産を產

先き一あはれを出で
金類の中ふ最も多
きハ銀あれ東洋諸
國へ其通用銀と積
出で日本かて洋銀
と唱ふるものえ矢
張りき一あのぞ
らるやう
女喜志古の西海岸
小赤保留古とてよ

物を衣食の用す
不足なれ一用以て
すま金と銀世界中
種々に一富玉利
用の源一汲え渴き



さ港りて飛脚船か
どハ必もうちへ立ち
寄りま
仰淺くとも吉モ
うる政清もん元モ
國の乱民乃昇化

○ 古論武子より亞米利加を發明せり以
前歐羅巴人の往来にて地理風俗を知
れり處へ唯其本國の近傍不^リ伊須蘭土阿非利加洲の北岸小亞細亞亞薩火

刻て互よもされば
名守。力すく被我
田力私約束一合へ
はやうじて一被せ
ひ確の勢を底

○中亞米利加の諸國も元ハ西班牙の領分か里一ヶ千八百二十一年本國の手を離れて暫くの間女喜志古ふ與ニ一二年と経て獨立の政府とかり其後の又各國相分きて各合衆政府を建て至

ノ 皇
メ 美志古のアキラ
ノ 教箇國ハ中華
ホ 利加の地成占て刻
ノ 横身立ひ休む水

屋の海岸より遠方
ハ後印度のミ即ち
左の圖中小白き處
を其外ハ更不知
らば唯此世界ハ圓
きものなりとの理
を信トて西の方小
も陸りtronと思ひ
案小違ちばれきを
見出しあるなり故

水怪之行末の治亂
の名もあらず中
亞米利加の東方小
群、鳴ハ西印度印
度ニ有縁有れ鳴を

小猿和土留の嶋と
見ても印度の地續
と思ひ一あとかく
庵一其時嶋人の驚
一方ありど老若男
女濱邊小集モ三艘
の船小帆クア様
と見テハ白き翼
を廣げゝ大化物
を思ひ一

西の印度と名け
ハ昔明應初年の近
せよ名と高た古論
武る西の世界が採
え紀始て見て不



猿利米東亞苗土山和利加
大平海の行はるは
夢も元氣見るは
を印度の端と認む

西印度の嶺の數九
一千以上氣候冬
ハ故に熱地味肥
も甚ハ熱地味肥
て產物多一人口合
せて四百万人此内
六千の一ハ歐羅巴
の人種ふて其餘ハ
黒人多又黑白相混
ドするもり日本

人告げて由來
古印度の名
印南古今未有
有の天譽明人也譽
と鷦の名也

三千五百歲の鳴の數

の多寡中世百八

耳二慣水名古

地ハもと西班牙の
獨立國かて皇帝ハ
黒人ナモ邪麻伊嘉
ハ英吉利領ナシ久
場ハ西印度諸島の
中にて最も大ひか
里の都と乗羽奈
と以ふ西班牙あき
と領モ馬濱ハ小さ

拵地邪麻伊嘉久

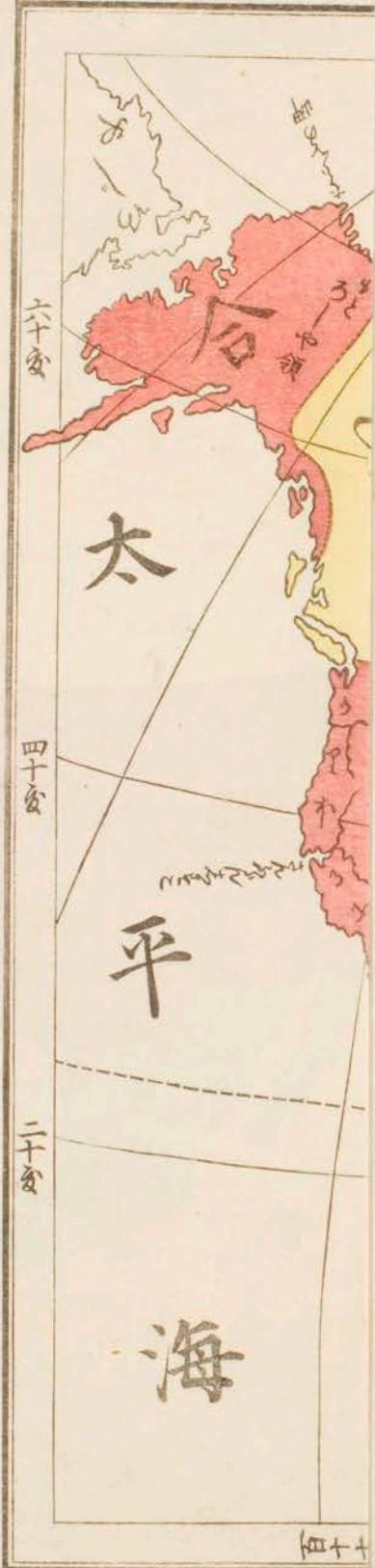
き嶋の一群众て其
數五百ナミ猿和土
留も其一嶋ナシ
此邊の芭蕉ナハ實
セ結び又ちんかつ

多刹ヒ土地の產物
豊ヨリ衣食足る
キのナシ砂糖骨
赤錦烟ナ拵地ニテ
た芭蕉の実久場

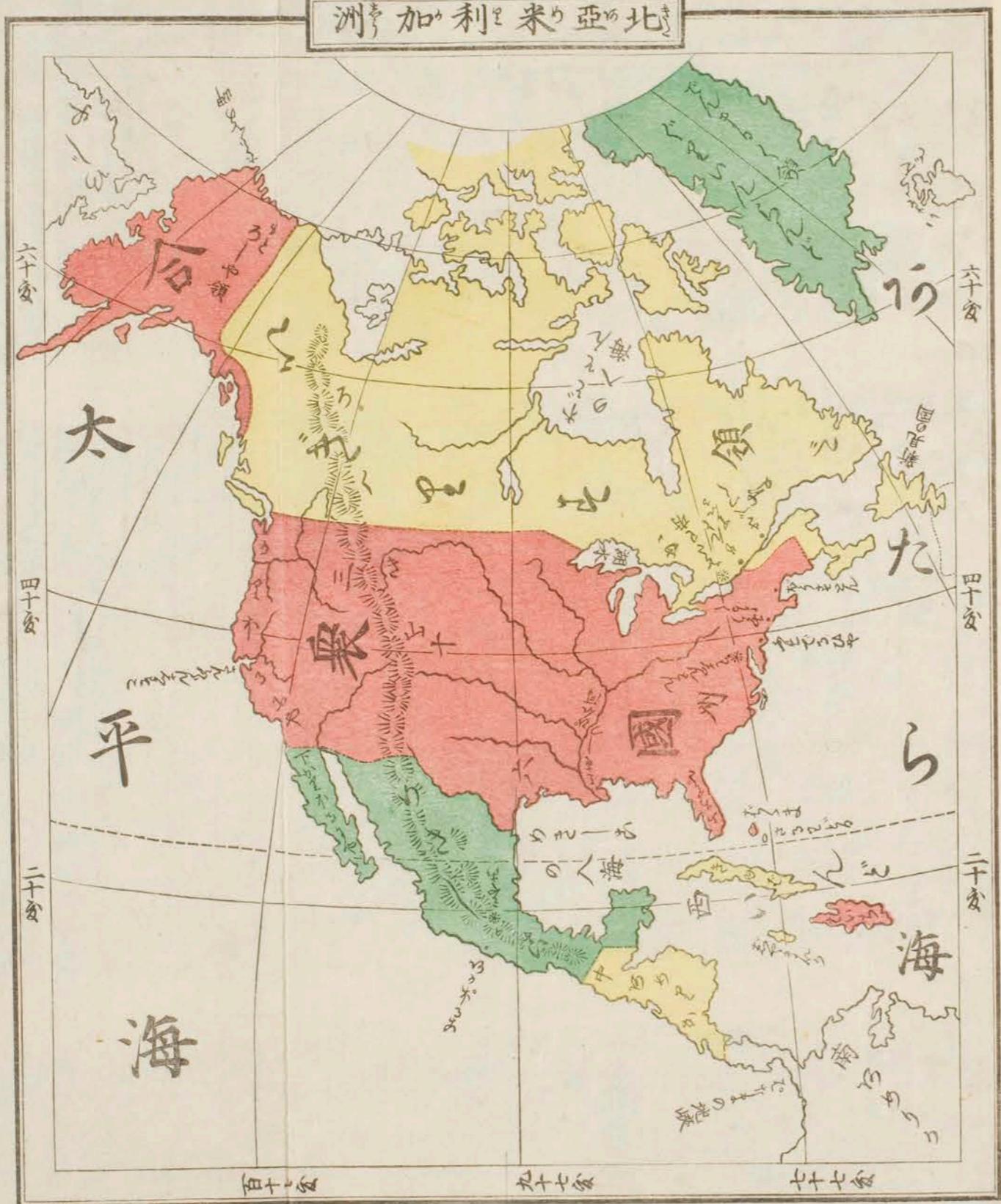
ふるといふものより
と何より其味より



ヨリ多様ともう表烟を蒙
セラフの如きの箱ノキ
世界多額の名品也



北亞米利加洲



2
3
4

州都司之印

三五
相

13-1

著作